

NZ に行つての感想

湧別高校 2 年 竹内 友美

ニュージーランドに行く前に決めていた目標やしたかったことが全て達成できたわけではなかったけど、楽しいこともたくさんあり、勉強になったこともたくさんあって、あつという間に過ぎていき、帰国の日が近づくにつれて帰りたくないという思いが強くなりました。

私が今回の派遣に参加しようと思った一番の理由は、将来就きたい仕事のため、英語をもつと話せるようになりたいということでした。向こうに着いて、ホストファミリーとの対面式が終わり、家に向かう車の中で、会話をしたいと思っても、なかなか上手く英語が話せなかったことを覚えています。それでも、ホストファミリーの方が話しかけてくれうれしかったし、聞き返すと丁寧に答えてくれて助かりました。当たり前なことだけど、わからないことがあったら相手に聞きかえすことが大事だと改めて気付きました。そしてできなかったからといって悔しがるだけではなく、どうすればできるようになるかを考え、行動に移すことが自分のためになるのだということにも気付きました。そして日を重ねるごとに、自分から話しかけられるようになり、リビングにいても気まずくならなくなりました。

私がホームステイした家の方は四姉妹いて、皆、放課後は習いごとについていて、スイミングスクールやクリケット、ダンススクールの見学に行つて楽しかったです。実際に水着をかしてもらい、一緒に泳いだことも楽しかったです。特に印象に残つたのは、ユース

スクールという 13 才～17 才ぐらいまでのダーフィールドハイスクールの生徒が集まつてバスケットボール、サッカー、ドッジボールをして、その後、教会に行つて、上級生が話をしていました。ジーザスという単語が良く聞こえて、ホストファミリーもディナーの前にアーメンと言うのでキリスト教についての話なんだなあ、と思いました。ドッジボールは日本とルールが違ってボールを 5 個ぐらい使い、真ん中において、いっせいに取りに行き、敵のチームの人にあてるというゲームで、外野、内野はありませんでした。一人あてると外に出なきゃいけないのですぐ 1 回のゲームが終わってしまいます。

クライストチャーチに着いてからハプニングだらけで、後半の方になってくると驚かなかつたし、逆に楽しんでいました。運よく私のスーツケースは届いたけど、皆のスーツケースが届かなくて、初日なのにホストファミリーの方々に色々ものを借りなきゃいけないで大変そうだったし、ダーフィールドハイスクールに向かうバスの中は期待というより、不安の方が大きかった気がします。すみさんがいて本当に心強いなあと思いましたし、最初から最後まで助けていただき本当に感謝したいです。団体行動だから、自分だけのことを考えている場合ではないということをつつも考え、修学旅行のように常に少し緊張していました。湧別町を代表して、向こうの方に私たちの文化や食について伝えることの難しさを感じました。表敬訪問の時、山火事のことがあって、忙しい職員の方々に貴重な時間をさいてもらったのに、いいかげんなことをしてすいませんでした。後 1 カ月ぐらいで高校 3 年生になります。その場だけでなく常に努力をする人になりたいと思つたし、自分の英会話の未熟さを感じたので、勉強をもっとたくさんして、悔いのないようにしたいと思つた。